

「# 横浜市長選挙」立候補への意志を固めた 5 月の 連休に、横浜市在住の知人複数名に送った書簡

先日はお時間を頂戴し、誠に有り難う御座いました。

旧英国総領事館の横浜開港資料館で 4 月 18 日まで開催された「レンズ越しの被災地、横浜 写真師たちの関東大震災」展へ最終日に訪れ、本町通り沿い旧横浜市街電話局の横浜ユーラシア文化館・横浜都市発展記念館で開催中の「横浜中華街・160 年の軌跡 この街が、ふるさとだから。」にも足を伸ばしました。

中国、台湾、朝鮮や日本の各地から「中華街」一帯に移り住んだ「村人」を活写した後者の展覧会の写真と図版は、横浜が刻み続けた深奥なる歴史を感じさせる企画です。他方で前者の展示は、無残にも崩れ落ち・焼け落ちた建造物と、哀しみに直面しながらも逞しく自分の生活を再建する人々の姿を、横浜市内で写真館を営んでいた写真師たちが 98 年前に遺した記録です。

公文書の毀棄や改竄を恬として恥じぬ昨今、インターネットやテレビは疎かラジオすら誕生していなかった往時の画像を素封家の土蔵から見付け出した学芸員の熱意にも打たれました。

以前にもお伝えしたように東京市に於ける関東大震災の犠牲者は、本所の陸軍被服廠跡地での 4 万人を除くと 2 万 8 千人でした。その 5 分の 1 の人口だった横浜市では、2 万 5 千人もの方々が無念の最期を遂げています。

閉塞感に覆われた日本には今こそ、人と街を「救い・護り・創る」新しい理念に基づく“夢と展望”が求められていると愚考しております。

幾つか温めております施策を、以下に記しました。ご笑覧頂ければ幸いです。

A:「待機児童数」が 16 人に激減と連休前に喧伝した横浜市には、「保留児童」という名の“隠れ待機児童”が 4 月 1 日現在で 2842 人も存在します。保育施設へ入れずに育児休暇を延長した母親、或いは自宅で求職中の母親。その子供達を「待機児童」でなく「保留児童」と“独自呼称”で括る詭弁を全国 1747 市区町村で唯一、横浜市は弄しているのです。

それは単独校調理方式、共同調理センター方式導入の可否すら検討もせず、突如として今春、「ハマ弁」は「デリバリー型給食」への進化形だと巧言し始めた唯我独尊な思考回路と似ています。

B:知事時代に県下120市町村の賛同を得て小中学校の給食に毎月、全ての食材を信州産で賄う「地域食材の日」を設け、小学校「30 人学級」も全国に先駆けて全学年に導入しました。“幼保一元化”ならぬ“老保一体化”の理念の下に県内 350 余ヶ所に設けた、保育士と介護士がお世話をする「宅幼老所」を横浜市でも実現します。ハコモノありきの「造る」から、「治す、護る、そして創るへ。」と発想を転換。商店街の仕舞た屋、住宅街の空き屋を改修。高齢者と就学前の子供が一つ屋根の下で一緒にお昼御飯を食べ、一緒にお昼寝をするディサービスと乳幼児保育が合体した空間です。お互いの智恵と元気を分かち合う、世代分断型ではない地域分散型の新しい福祉のあり方なのです。

C:横浜市は、保健所を 2007 年に「行革」の一環で本庁舎 1 箇所へ統廃合し、各区に福祉保健センターを設けました。が、「机上の空論に陥りがちな本庁舎」と、「指示待ち族に陥りがちな 18 区役所」の上下構造が、コロナ禍に於ける“後手後手の対応”を齎す一因となったのは否めません。横浜市内の高齢独居者は、65 歳以上の高齢者 97 万人の過半数を大きく上回る 51 万人にも達しており、弾力的な対応が急務です。保健師や無報酬で奉仕する民生委員の奮闘だけでは地域の福祉は立ち行きません。

D:「脱・縦割り」発想で「救急・消防・保健・医療」の統合的な司令塔を、在日米軍上瀬谷通信施設跡地(東京ドーム 51 個分・242ha)の北半分に設ける構想を考えています(2027 年に開催「予定」の「国際園芸博覧会」は跡地の南半分 125ha)。それは、「消防の赤組」「救急の白組」と呼ばれて久しい消防組織内の上下構造を一体構造へと、他の自治体に先駆けて、変容させる取り組みでもあります。

「前例がないから出来ない」。「法律で決めているから従え」。中央・地方を問わず行政組織は、“上から目線”となり勝ちです。その中で消防・救急の組織は、良い意味で“特異”な行政組織。如何に困難な状況であろうと人を助け・救うべく、現場リーダーの指揮の下で全力を尽くす意識を他部署でも共有してこそ、真の公務員改革と考えています。

消防・救急等の各種訓練施設に加え、天変地異の際には東名高速道路横浜町田 IC から全国各地の被災現場へ、押っ取り刀でお手伝いに駆け付けるヨコハマ版「サンダーバード隊」を創設します。

E:片仮名言葉のロジスティクス＝流通が人口に膾炙する遙か前から、国民生活の兵站を平和的に支えてきたボンネット型のトラックやバス、消防車等の特殊車を展示する日野自動車の日野オートプラザ(八王子市みなみ野)。週末には多くの家族連れが訪れ、子供達は直に車体に触り、座席に座り、記念写真を撮っています。因みにメキシコ生まれの子供向け職業体験型テーマパークとして世界 17 ヶ国で展開の「キッズ

ニア」。日本ではアーバンドックららぽーと豊洲(江東区)、ららぽーと甲子園(西宮市)に位置します。

「救う・護る・創る」の理念に基づき、製造や接客に加えて物流・港湾を含む多種多様な現場で日本経済に貢献してきた老練な OB・OG が、地に足の付いたマイスターとして 21 世紀を担う次世代に、働くことの尊さを伝授するヨコハマ独自の時空間を設けるべき。造船・製鉄に象徴される「富国強兵」の開国を牽引した横浜は、21 世紀に相応しき「経世済民」の「改国」を発信する内陸部のランドマークとして、在日アメリカ海軍上瀬谷通信施設跡地を位置付けるべきです。

F:都筑区に本社を置くサカタのタネは、米国のモンサントを買収したドイツのバイエルに代表されるバイオ化学企業と異なり、京都のタキイ種苗と共に遺伝子組み換え作物に手を染めぬ経営方針で知られます。1759 年設立でロンドンのテムズ川右岸に位置する東京ドーム 27 個分のイギリス王立植物園 Kew Gardens。繁殖が困難な稀少植物の保全に努め、遺伝的多様性を維持する種子銀行も併設。世界屈指の植物園としてユネスコ世界遺産に登録されています。2027 年に開催予定の「国際園芸博覧会」(仮称)も、過去に日本で開催された 1990 年「国際花と緑の博覧会 (EXPO'90)」(大阪府)、2000 年「ジャパンフローラ 2000(淡路花博)」(兵庫県)、2004 年「パシフィックフローラ 2004(浜名湖花博)」(静岡県)の延長線では無意味。全世界に YOKOHAMA を発信し得る内容か否かを先ずは議論すべきです。

G:数多の力士を輩出のモンゴル(人口 323 万人)、ホセ・ムヒカ元大統領のウルグアイ(346 万人)よりも住民が多い 378 万人都市ヨコハマの空き家は、20 政令指定都市の中で 2 番目に多い 18 万戸にも上ります。防火・防災・治安・景観の観点に立って解体費用の一定額を市が負担し、近隣の町内会の住民と相談しながら「救う」観点からミニ緑地化、「創る」観点から地域菜園化、更には「護る」観点から町家再生化を図ります。

H:戦後 4 人目の民選知事として就任した 2000 年 10 月、長野県は財政再建団体転落寸前で、1 日の利息の返済額だけでも 1 億 4812 万円に達していました。不信任決議に伴う 2002 年の出直し知事選を間に挟んで在任 6 年間、県民の理解と職員の協力を得て全国 47 都道府県で唯一、債務残高＝借金を計 923 億円減少させ、基礎的財政収支＝プライマリーバランスも同じく唯一、7 年度連続で黒字化しました。財政再建で生まれた新たな原資を、「人が人のお世話をし初めて成り立つ 21 世紀型の労働集約的産業」と呼ぶべき「福祉・医療・教育・観光・環境」の分野に傾注投資。就任翌年に IT バブルが崩壊したものの、在任 6 年目には年率 5%を超える実質経済成長率を達成しました。

I:来年度の税収不足 970 億円を補填する“ウルトラ C”はカジノ誘致だと嘯き、前年比 115・4%の一般会計予算 2 兆 0073 億円(特別会計・公営企業会計と合わせて総額 3 兆 9020 億円)を本年度予算に計上した横浜市。知事在任時、人口 220 万だった信州・長野県の予算は特別会計・公営企業会計を含めて 1 兆円でした。その 2 倍にも満たぬ人口 378 万人の横浜市は、長野県の 4 倍の予算を以てしても財源が足りないと言いつつを繰り返しています。

これまでの経験を踏まえ、「緊縮財政 VS 放漫財政」の不毛な二元論を超えた住民サーヴィス向上と財政健全化を目指します。

城山三郎さんが晩年に上梓した随筆集『無所属の時間で生きる—この日、この空、この私』の表題に、静かに膝を叩くであろう真っ当に生きる方々が“夢と展望”を抱ける国際港湾都市の未来を切り拓きたく存じます。

横浜での新しい住まいは、昨年末にお伝えした相模鉄道沿線を始めとして幾つかの地域を検討し、最終的にワシン坂から程近い山手町の一廓に決めました。住民票も小生 65 歳の誕生日 4 月 12 日に移し、家具も 5 月中旬までには取り揃えます。

担当する Fm yokohama 84・7「たまたまなく、AOR」も 6 年目を迎えました。音楽批評家の中田利樹さん責任編集の『AOR AGE』が『「なんとなく、クリスタル」とその時代』と題し 34 頁の特集を Vol.21 で組んで下さり、小生も 14 頁に亘ってインタビューを受けました。レターパックの中に雑誌を同封いたします。

1989 年に文藝春秋が創刊の『CREA』でスタートし、『NAVI』『GQ Japan』『週刊ダイヤモンド』を経て、現在は『ソトコト』で連載中の浅田彰氏との対談「憂国呆談」最新回等も、お目通し頂ければ幸いです。

不覚にも最近、現在の尾上町で営まれていた豚肉料理屋が出火元だった慶応 2 年 10 月 20 日(1866 年 11 月 26 日)の「豚屋火事」と呼ばれる「関内大火」の惨事を、画家の小林泰彦さん(作家の小林信彦さんの弟)の文章で知りました。その痛ましき史実を紐解き、山下ふ頭の望ましきあり方を示唆する『FACTA』2015 年 7 月号の記事も同封します。

引き続き、ご指導ご鞭撻の程、宜しく願いいたします。